

## 前回会議で出された質問一覧

No.	質問・回答
1	<p>スクールバスを使ってやるのは可能なのか聞いてみたい。            ⇒スクールバスは通学距離6kmを目安に検討します。仮に第二中を活用する場合、学校敷地内にバスロータリーを設けることは難しいですが、近くの公園駐車場や市役所でバスの乗降が想定できます。</p>
2	<p>今後10年間で統合の可能性がある小学校を示してもらいたい。            ⇒基本方針では中央小以外は再編する方針としています。            中和・萬歳・古城 → 古城小の位置でR9開校            富浦・矢指 → 矢指小または一中を活用 R8 地域検討会議設置予定            干潟・豊畑 → 干潟小を活用 R9 地域検討会議設置予定            共和・琴田 → 共和小を活用 R10～R12 地域検討会議設置予定            鶴巻・滝郷・嚶鳴 → 嚶鳴小の位置でR11開校予定            飯岡・三川 → 飯岡中を活用 R10～R12 地域検討会議設置予定</p>
3	<p>出生率が上がっている過疎地域もあるが、市ではどのような対策をしてきたのか。            ⇒資料2のとおり。</p>
4	<p>将来的に収益がどういうふうになるのか、旭市の財源についてのデータがほしい。            ⇒資料2のとおり。</p>
5	<p>こういう素晴らしい環境の中学校があるという事例。全国で成功している旭市に見合ったようなモデルケースがあれば参考にしたい。            ⇒資料3のとおり。</p>
6	<p>小学校区ごとの生徒数推計のデータ。            ⇒資料4のとおり。</p>
7	<p>北中に干潟・豊畑学区の生徒が加わった人数。            ⇒資料4のとおり。</p>
8	<p>二中を活用する場合、いつ頃になれば今の二中の環境でも十分な教育活動ができるようになるのか。            ⇒資料4のとおり。</p>
9	<p>北中と南中の人数が入るだけの校舎を増設するとなるとどのくらい費用が掛かるのか。            ⇒資料5のとおり。</p>
10	<p>新築するとしたらどのくらい時間がかかるか現実的な時間軸を示してもらいたい。            ⇒資料5のとおり。</p>
11	<p>既存の建物を使って学校運営していく場合と新しく建てて学校運営する場合の費用比較            ⇒資料5のとおり。</p>

【事例紹介】文部科学省 CO-SHA Platform より抜粋

## 対話型設計で、学校機能の充実と 地域の居場所となる教育環境を実現

陸前高田市立高田東中学校（岩手県 陸前高田市）

本事例のキーワード

柔軟な学習空間

対話型設計

プロポーザル方式



### 事例のポイント

プロポーザルコンペによって設計者を選出し、ワークショップや説明会を開催して地域住民の意見を取り入れ、地域に開放した教育環境を整えた。

空間の創意工夫によってフレキシビリティを高め、地域活用や教育のニーズに合わせて柔軟に対応する、ゆとりのある教室環境を実現した。

### 事例概要

高田東中学校は東日本大震災により被災した広田中学校・小友中学校・米崎中学校の3校が統合し、平成25年に新設した中学校である。陸前高田市は中心市街地の被害が大きく、復興に時間がかかる状況で住民たちの居場所を必要としていた。そこで、学校機能の充実に加え「地域住民の居場所」となる学校づくりを目指した。

設計者選定はプロポーザル方式で行われ、ワークショップや説明会等を行いながら設計作業を進めた。ワークショップは地域住民や小中学生を対象として、要望の収集と計画内容の体験と周知を目的に開催し、その効果を検証するためにアンケート調査を実施。また、新校舎建設の状況を学校づくりニュースとして配布するなど、地域住民を巻き込みながら計画を進めた。

設計事務所は地域との対話の中で、設計に「どこからでも海が見える校舎にすること」「周囲の山並みの風景に寄り添い、木の大屋根に包まれた空間にすること」の2つのコンセプトを設定し、大屋根の下に生徒や地域住民が集う、地域のつながりとなる豊かな空間を実現した。

大屋根の構造や内装材には地域材である気仙杉を用いている。空間の創意工夫によりフレキシビリティを高め、地域活用や教育のニーズに合わせて柔軟に対応する。2階には地域に開放したエントランスを設けてオープンな図書室や多目的ルームを配置。また、普通教室に隣接して多目的スペースをつくり、可動式な間仕切りとして、多様な授業形態に対応している。



## 事例ポイント 1

### 空間デザインの創意工夫によるゆとりのある教室環境の実現



教室に隣接した多目的スペース。  
左奥はロッカースペースになっている。



ロッカースペースの様子



普通教室。右側壁面の引き戸を開くと多目的スペースにつながる。

学年2学級の中学校整備において、2つの普通教室の間に、ほぼ同じ広さの多目的スペースを配置。壁の一部を可動式の間仕切りとし、引き戸の開閉により、空間的・機能的なつながりを持たせ、多彩な授業形態に対応できるようになった。

また、ロッカーや掃除器具等を教室周辺に配置し、教室内はゆとりがあり、すっきりとしており学びに集中できる教室環境を確保している。

## 事例ポイント 2

### 地域と繋がる平面計画

地形をうまく利用し、1階はグラウンドへと繋がる学校のための階、2階は地域と繋がる階とした。

2階には大きなエントランスホールを設け、図書室や多目的ホールを一体空間として地域住民が立ち寄る手がかりをデザインした。

## 事例プロセス

### 住民参加型のプロセスで、地域のつながりを生む学校づくりを行う

プロポーザルコンペによって設計者が選定され、ワークショップ及び説明会等を行いながら設計作業が進められた。

住民参加型のプロセスでは、「学校づくりのワークショップ」「説明会」「学校づくりニュースの配布」「高田東中ギャラリー」「希望の木・実りの木」「ブックカフェワークショップ」など、生徒や住民を巻き込む様々な取り組みを施行した。計画内容の周知や地域の要望収集を行い、学区内の小中学生の要望を自由に記述して大きなポスターに貼り、「希望の木・実りの木」として表現・展示した。

設計プロセスのなかに住民との意見交換の機会を設けることで、学校機能に加えて学校開放という形で地域住民の新校舎利用を促し、復興が完了するまでの公共サービスの検討が行われた。時間をかけ、地域との交流を取りながら意見を取り入れていくことで、地域のステークホルダーから理解を得ることができ、互いの情報共有、意見交換のための基盤づくりとなった。

## 学校概要

陸前高田市立高田東中学校  
岩手県 陸前高田市

完成：平成28年10月

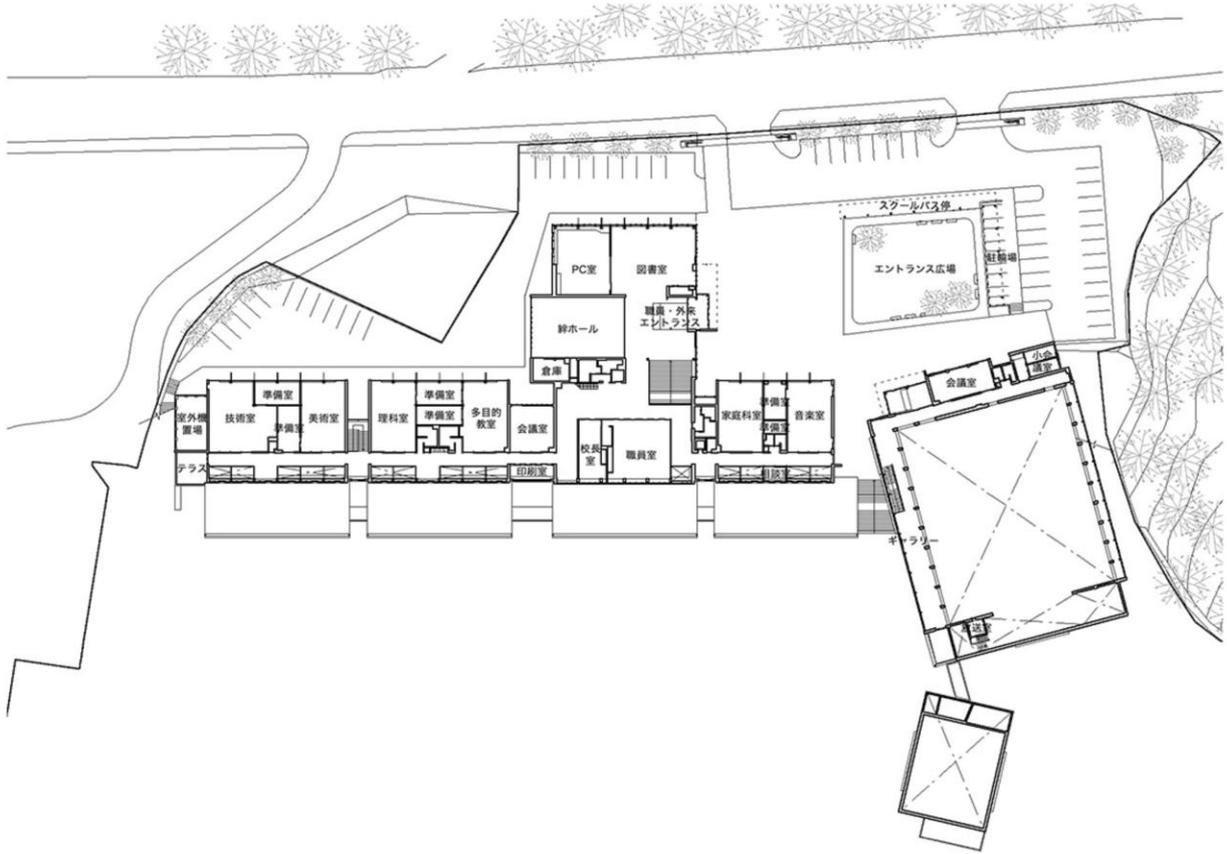
学校規模：6学級(2)、184人 ※学級数のカッコ内は特別支援学級数を表す。

校舎面積：4,493㎡

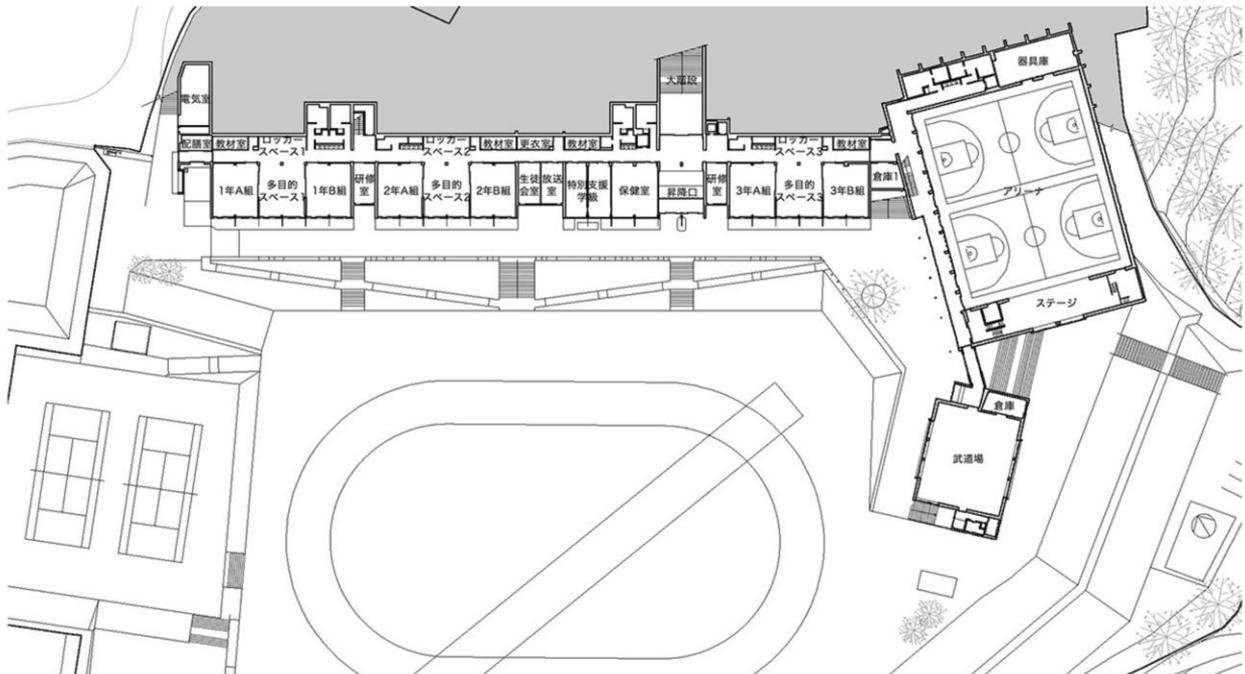
※整備当時

# 平面図

2階平面図 S=1/1200



1階平面図 S=1/1200



# 高台の緑に溶け込む 森の中の木の学び舎

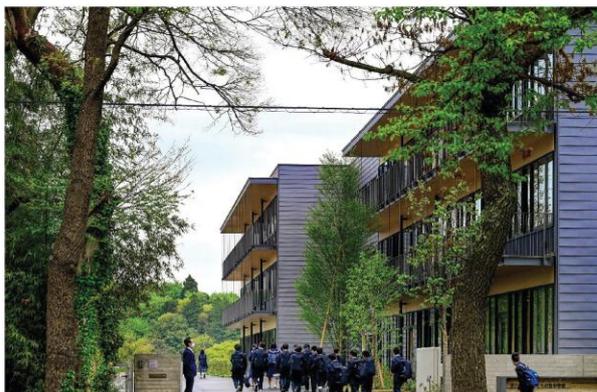
おおぐろの森中学校（千葉県流山市）

## 本事例のキーワード

木材利用

脱炭素

ICT活用



写真撮影：輿水進

## 事例のポイント

児童生徒数の急増に対応するために新設された中学校。木造で整備することにより温かみのある教育環境を実現するとともに、ICT環境の整備にも取り組んでいる。

## 事例概要

流山市立おおぐろの森中学校は、つくばエクスプレス開業以降続く大規模な住宅開発による児童生徒数の急増を背景に、令和4年4月に開校した新設校である。その校舎は「高台の緑に溶け込む 森の中の木の学び舎」をコンセプトとして木造3階建てで整備されている。構造にも内装にも木材が多用された校舎には温かみと潤いが感じられ、そのお陰で落ち着いた柔らかな教育環境が生み出されている。

校舎に使用した木材は、千葉県産スギや姉妹都市である長野県信濃町産カラマツを県内で加工した地域材である。また、流山市の治水に影響を与える利根川上流域の木材など、地域に縁のある木材を中心に活用し、木材使用量は3,500m<sup>3</sup>、炭素貯蔵量に換算すると2,850 tの二酸化炭素固定を達成した、国内最大級の木造校舎群となっている。

流山市においては、児童・生徒の確かな学力を育成するため、ICTの活用にも積極的に取り組んでいる。令和2年に市内全小中学校の無線LAN環境を整備し、令和3年4月には1人1台タブレット端末の配備を完了。現在、タブレット端末を使った授業を積極的に展開している。おおぐろの森中学校においても、充実したICT環境を活かし、生徒1人1台のタブレット端末や、高機能の電子黒板等を使用する授業が日常的に行われている。



## 事例ポイント 1

### 木材の利用による快適で温かみのあるリビング空間

学校施設は教育を行う場のみならず、児童生徒の社会性・人間性を育む場でもあり、それにふさわしいゆとりと潤いのある快適な空間であることが重要である。おおぐろの森中学校では、構造材として、また、内装材として、多くの木材が活用されている。木材の多用により、校舎内には温かみと潤いが感じられ、そのおかげで落ち着いた柔らかな教育環境が生み出されている。

その木質空間は、部屋の用途に合わせた多様な構造でつくられている。例えば、読書ラウンジは、フローリングの床に加え、木製の家具が配置されており、落ち着いた雰囲気の中で時間を忘れて読書に没頭したり、休憩をとることができるように工夫されている。多目的ホールは、姉妹都市である能登や信濃町の木材が使われ、階段状の作りとなっており、学年ミーティングや地域行事等で活用されている。また、図書室は木材の特性を生かし、幅が小さく奥行きのある、家具と一体的な架構でつくられ、親しみやすい空間となっている。

木造の校舎は、子供たちがゆっくり過ごしたり、落ち着いたりすることができる居場所となっている。



読書ラウンジは木製家具を配置し、生徒や教員のリフレッシュの場として活用されている



普通教室は柱、梁、天井の木材を現して表現し、温かみのある学習空間となっている



ホールは階段状のスペースで学年集会や発表の場として活用されている



図書室は家具と一体的な架構とすることで、親しみやすい空間となっている

写真撮影：川澄・小林研二写真事務所

## 事例ポイント2

### 児童生徒の確かな学力を育成するためにICT教育を推進

個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実するためには、学校教育の基盤的なツールとして、ICTは必要不可欠なものとなっている。流山市では、児童・生徒の確かな学力を育成するため、ICTを活用した教育を推進しており、ハード面では、令和2年に市内全小中学校の無線LAN環境を整備し、令和3年4月には1人1台タブレット端末の配備を完了。以降、ICTを効果的に活用した学習を推進している。

おおぐろの森中学校では、普通教室に電子黒板機能搭載の高機能のプロジェクターが整備されており、プロジェクターで黒板上に資料や教材の提示がすぐにでき、電子ペンでタッチするだけで書き込みや操作ができるようになっている。授業では、プロジェクターを活用することで、学習課題を分かり易く提示して説明を行ったり、タブレット画面を使って思考や意見を共有することで相互理解を深める学習が行われている。また、欠席している生徒への授業の配信や、全校集会や校内行事の映像配信など、その他の場面においてもICT機器の活用が進んでいる。これらのICT機器の活用により、生徒の学びが深まることに加え、授業前の煩雑な準備が必要なくなるため、教員の負担が軽減され、教員の働き方改革にもつながっている。

その他、ソフト面においても、学習支援ツールを使うことで、教員は、タブレットで学習した児童・生徒個々の学習日や学習時間、学習進捗などの学習履歴を確認することができるようになっているため、個別最適な学びの充実や、きめ細かい指導や学習改善など、生徒一人一人への適切なサポートと学習評価の参考資料として活用されている。



高機能プロジェクターを活用した授業の様子



全校集会の映像配信の様子



タブレットを活用した授業の様子



タブレットを活用した授業の様子

## 事例ポイント3

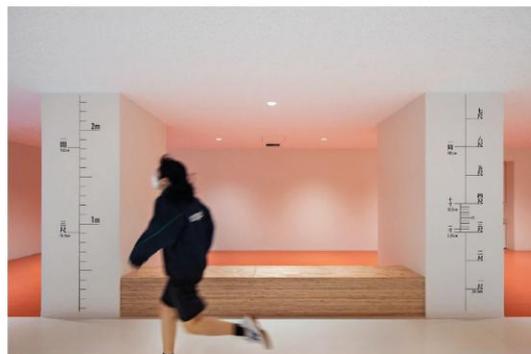
### 積極的に学びに参加できるサイン

教室のサインは、生徒数増加によるクラス数の変化に対応するよう、差替え可能なサインとなっている。特別教室のサインは、各教科の特徴を表すものとなっており、サインによって移動が楽しむことができる空間となっている。校舎間にある中庭に架かるガラス張りの渡り廊下では影を楽しむサインや、体育館前には身体寸法を確認し、身体を動かすきっかけづくりにもなるサインがデザインされている。また、生徒たちの環境への意識や関心を高めるため、校舎の木材使用量や炭素貯蔵量を紹介するサインも掲示されている。

移動空間の端には校舎建設前に発掘調査された、大畔中ノ割遺跡の様子が土器と共に展示され、地勢を学ぶことができる工夫も凝らされている。



「小林一茶」が縁ある流山の地で読んだ句をサインで表現し、歴史や風土を知るきっかけづくりになっている



体育館前のラウンジの柱には距離や高さを測るさまざまな単位が表現されている



校舎の木材使用量や炭素貯蔵量を校内に掲示



校舎建設前に発掘調査された大畔中ノ割遺跡の様子が土器と共に展示されている

## 学校概要

おおぐろの森中学校  
千葉県流山市

全体工期：令和2年10月～令和4年3月  
学校規模：20学級、540人  
敷地面積：26,734㎡  
保有面積：14,568㎡  
構造：木造（一部RC造、S造）3階建  
※令和5年5月1日時点

写真撮影：川澄・小林研二写真事務所





1階平面図



2階平面図

3階平面図

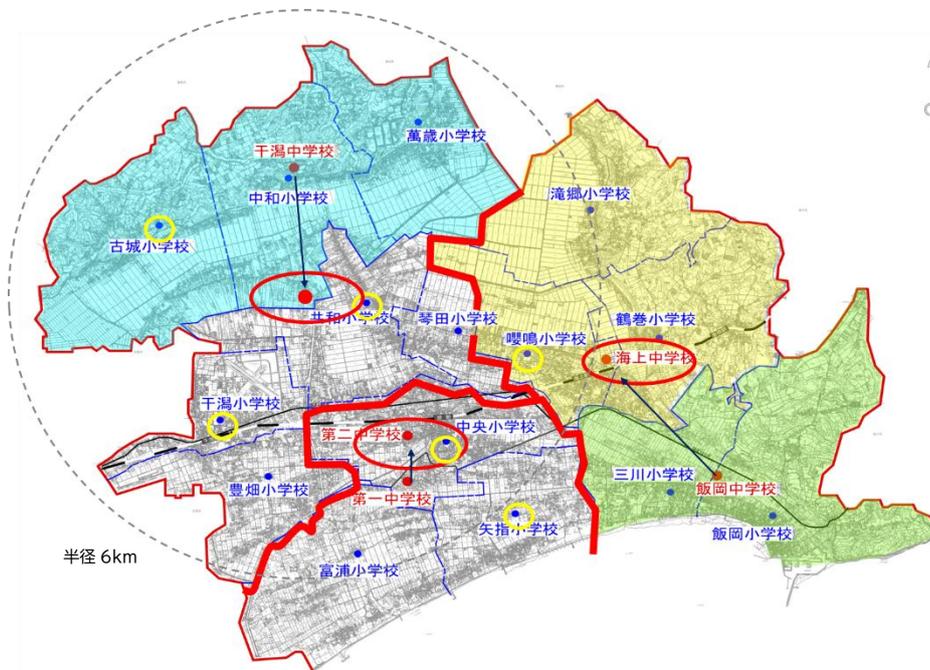


CO-SHA Platform ウェブサイト  
<https://www.mext.go.jp/co-sha/>



## 生徒数の推計について

## 1. 学区の見直し（干潟・豊畑学区を含めた場合）



## 【小学校区ごとの推計】

	2026 R8	2027 R09	2028 R10	2029 R11	2030 R12	2031 R13	2032 R14	2033 R15	2034 R16	2035 R17	2036 R18	2037 R19
琴田小	65	59	58	59	56	48	55	58	60	51	46	41
共和小	128	117	112	93	102	107	115	111	122	114	116	108
中和小	46	40	38	41	39	29	25	19	18	17	16	17
萬歳小	35	41	36	43	35	34	25	24	23	25	21	15
古城小	58	56	49	47	41	40	37	33	34	27	27	21
北中	332	313	293	283	273	258	257	245	257	234	226	202
学級数	11	10	9	9	9	9	9	9	9	8	7	6
干潟小	134	130	126	137	154	141	144	124	129	102	107	99
豊畑小	85	95	83	84	68	73	63	63	61	59	56	50

※R8～R13はR7.5月時点の小学生1年～6年の人数を使用

※R14～R19は住民基本台帳(R7.5月時点)の1歳～6歳の人数を使用

## 【学区の見直し後の推計】

## (仮称)北統合中学校+干潟・豊畑学区

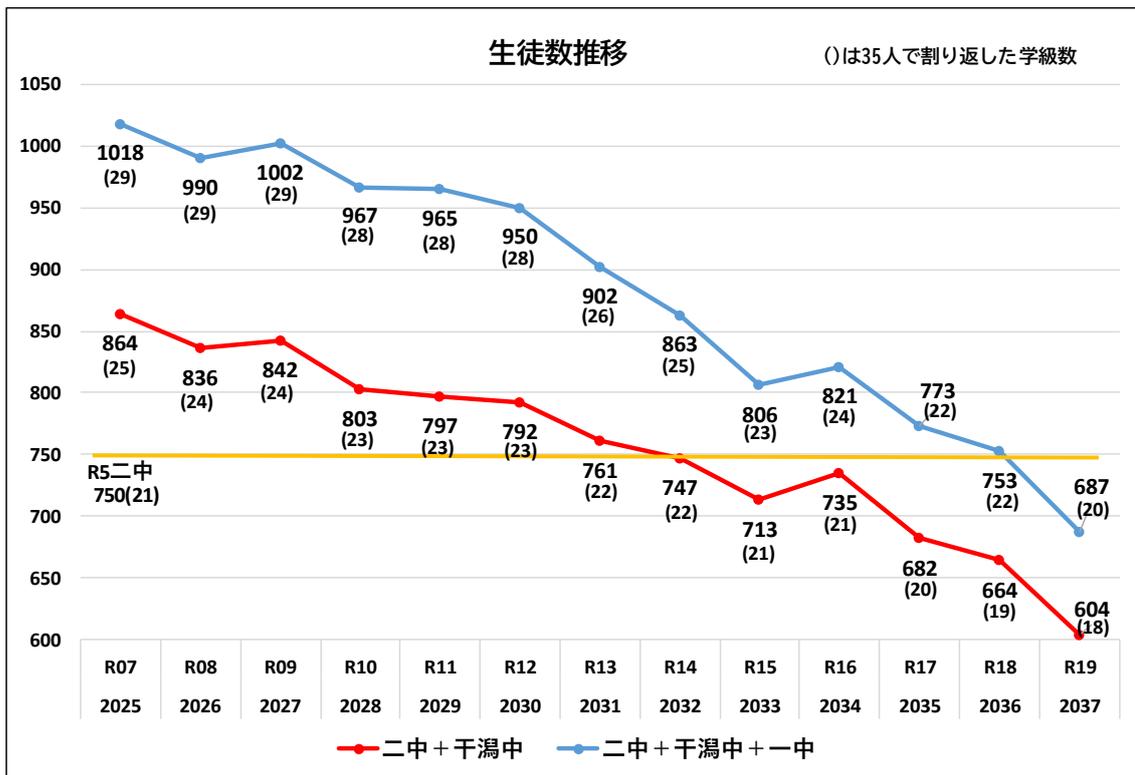
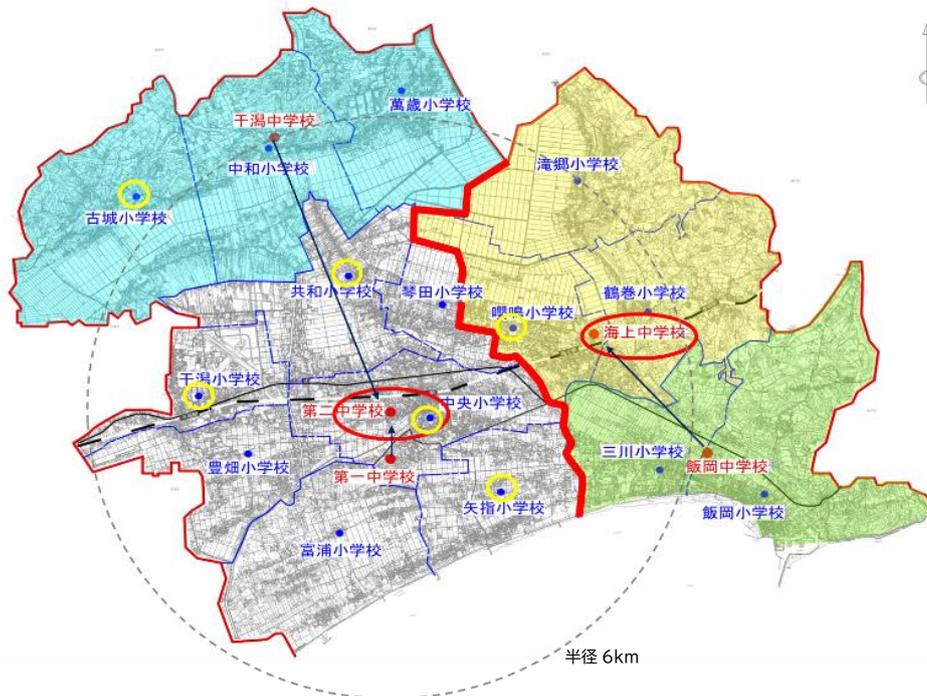
	2026 R08	2027 R09	2028 R10	2029 R11	2030 R12	2031 R13	2032 R14	2033 R15	2034 R16	2035 R17	2036 R18	2037 R19
生徒数	546	529	500	499	494	472	466	433	447	395	389	351
学級数	16	16	15	15	15	14	14	13	13	12	12	11

## (仮称)南統合中学校-干潟・豊畑学区

	2026 R08	2027 R09	2028 R10	2029 R11	2030 R12	2031 R13	2032 R14	2033 R15	2034 R16	2035 R17	2036 R18	2037 R19
生徒数	444	473	467	466	456	430	397	373	374	378	364	336
学級数	13	14	14	14	14	13	12	11	11	11	11	10

【開校時期目安】 2036年(R18)以降

## 2. 第二中を活用



【今の二中学生数と同規模になる時期】

- ・二中+干潟中 2032年(R14)
- ・二中+干潟中+一中 2036年(R18)

## 学校施設の整備について

### 1. 既存施設を活用した場合（例：第二中学校）



(拡大図)



・普通教室数：28 教室

音楽室 3 ・ 理科室 2 ・ 美術室 2 ・ 家庭科室 1

調理室 1 ・ 木工室 1 ・ 金工室 1 ・ 情報教育室 1

(仮定) 2030 年度 (令和 12 年度) に統合

生徒数：950 人 36 教室

通常学級 870 人 25 教室 (1 クラス 35 人)

特別支援学級 80 人 11 教室 (R7 参考)

#### 【概算費用】

①校舎増築・既存校舎改修：約 30 億円

②情報処理棟 改修：約 5 億円

③技術室・柔剣道場 改修：約 10 億円

④屋内運動場 改修：約 2 億円

⑤グラウンドなど外構工事：約 3 億円

合計：約 50 億円

【課題】 周辺道路が狭い・駐車場が少ない (イベント時、雨天時) ・ 第 2 グラウンドが離れている

## 2. 新築の建築スケジュール（想定）

項目	0Y	1Y	2Y	3Y	4Y	5Y	6Y	7Y	8Y
①計画・設計 ・調査 ・基本設計 ・詳細設計、工事監理	●	●	●			●			●
②用地取得 ・土地収用法手続き ・用地交渉、契約、登記		●	●	●	●				
③工事 ・建築、管、電気、外構 ・周辺整備						●	●	●	●
④都市計画法 ・開発協議、同意			●	●	●	●			
⑤建築基準法 ・建築確認申請、許可					●	●			
⑥農地法手続き※ ・転用・農振地域			●	●	●	●			
⑦その他 ・排水協議、手続き ・上下水道協議、手続き			●	●	●				

※必要に応じて実施する項目

## 3. 学校の更新にかかる財政シミュレーション（2060年まで）

### ①新築した場合（2036（R18）年に統合 想定）

・初期費用：70.0億円      2060年までの総額：93.0億円

#### 校舎

年度	工事種別	金額
2036	普通・特別教室棟（新築）	42.0億円
2036	校庭・外構・道路整備等	18.0億円
2056	普通・特別教室棟（大規模改造）	16.3億円

合計 76.3億円

#### 体育館

年度	工事種別	金額
2036	屋内運動場（新築）	10.0億円
2056	屋内運動場（大規模改造）	6.7億円

合計 16.7億円

※南統合中学校の整備費用は別途必要

### ②第二中を活用（2030（R12）年に第一中、第二中、千潟中を統合 想定）

・初期費用：50.0億円      2060年までの総額：79.0億円

#### 校舎

年度	工事種別	金額
2030	教室棟・管理教室棟（統合改修・増築）	30.0億円
2030	特別教室棟（統合改修）	
2030	情報処理棟（統合改修）	5.0億円
2030	技術室・柔剣道場（統合改修）	10.0億円
2030	グラウンド等外構	3.0億円
2050	教室棟・管理教室棟（大規模改修）	10.0億円
2050	特別教室棟（大規模改修）	
2050	情報処理棟（大規模改修）	2.0億円
2059	技術室・柔剣道場（改築）	12.0億円

合計 72.0億円

#### 体育館

年度	工事種別	金額
2030	屋内運動場（統合改修）	2.0億円
2050	屋内運動場（大規模改修）	5.0億円

合計 7.0億円

※部室棟は、算定に入れていない。

※その他経費（参考）

- ・光熱水費（R6年度 第二中）：約1,100万円
- ・スクールバス ※導入した場合：1台あたり年間約1,000万円